

# 「新・避難訓練」

参加ありがとうございました。

問合せ先

地域防災課地域防災係 ☎ 2-2-17-1 内線 (222)

最初の5分が勝負！

夏季と比べて冬季の津波避難は、寒さ対策などの身支度があるため、屋外へ出るまでに時間がかかります。

避難の時間を短くするため、本町では「5分」という目標を掲げて、町内会や消防団等関係機関の協力を得ながら、津波浸水域内にある市街地45町内会の皆さんを対象に、自宅前の道路まで避難する「新・避難訓練」を昨年12月と1月、2月に計3回実施しました。

参加者は、回数を重ねるごとに増え、3回目の訓練では、参加者が1600人を超えました。また、毎回100件程度の意見や提案があり、津波避難に対する関心の高さを感じました(次ページ「参加者みなさんからの意見」参照)。家の外へ出るまでの時間は、おおむね「3分」以内が半数の50%。「5分以内」を合わせると総数の約90%という結果になりました。

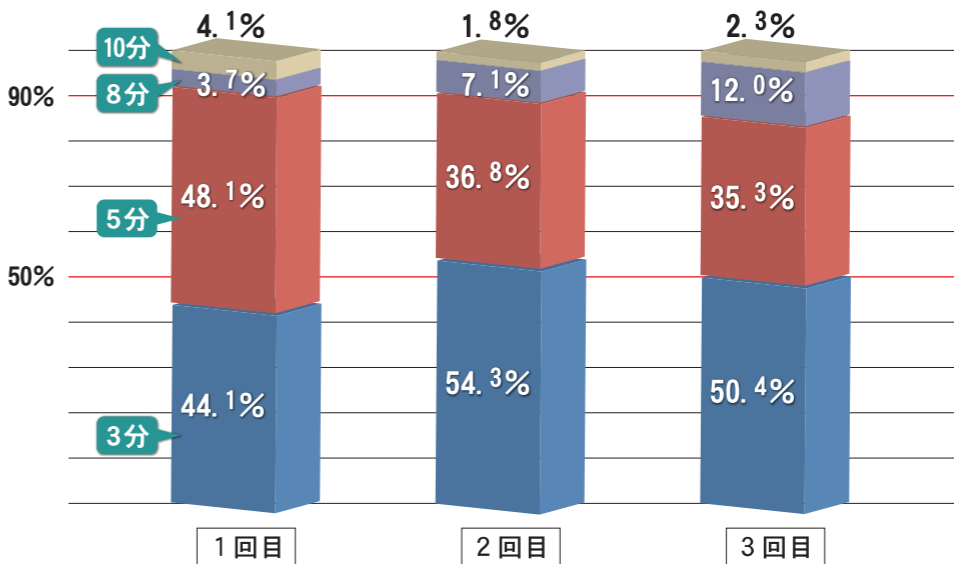


## ●参加人数の推移

回数	期日	参加人数	参加率
1回目	12月10日	1,441人	21.42%
2回目	1月14日	1,596人	23.73%
3回目	2月11日	1,676人	24.91%

対象：45町内会 6,727人、3,704世帯(令和4年11月30日現在)

## ●避難時間の推移



## 参加者みなさんからの意見 (一部)

- 参加者がいつも同じ。参加できなかった人に意識を持ってもらうことが大変。
- 積雪もあり、歩くのに時間のかかる人が多かった。今回の訓練は非常持出品を備えておく必要性の意識づけになったと思う。
- 1次避難場所を決めたので家族参加も増え集約しやすかった。
- 団地の人と声を掛け合い、励まし合って避難できた。
- 地元のお店で防災グッズを展示し、実際に手に取り購入できるようにしてはどうか。
- 面倒でも集合場所まで歩いた。夏に避難場所まで歩く時間を計りたい。
- 回を重ねるごとに持出品を持っている人や防寒着の着用者が増えた。春夏秋冬1回ずつ訓練を行えば、マンネリ化せず参加してくれるのではないかと。
- 思っていたよりも参加者が少なく、町内会としてどのように意識づけしていくのが課題。
- 備蓄品を定期的に見直すだけでも訓練する価値はあった。
- 避難者同士で情報交換している様子があった。人づてに聞いた方がより実感がまし、お互いに確認し合うことで身になっているように思う。



2月11日(土)に開催した3回目の「新・避難訓練」回数を重ねるごとに防災リュック(非常持出品)を背負った方や防寒対策をしている方が増えました。

## 家庭・地域・職場での防災

避難時間を短くするためには、「心」(避難意識)と「モノ」(非常持出品など)を準備することが一番です。

自分の命を守る最初の取り組みである「自助」には「非常持出品」の準備、火災防止のための火の元や電源の確認、防寒対策、避難経路の確認などがあります。

また、地域で防災訓練や防災研修を行うことは、地域や家庭の防災力向上につながります。町では、町民の皆さんと一緒にこの取り組みを進めていきたいと考えていますので、人数の


## 防災リュック(非常持出品)の中身って知ってる？

「防災リュック」は、どのような災害に対しても有効です。「非常持出品」は「防災リュック」と称して販売されていますが、町は「防災リュック」取扱店(下記参照)に協力をいただき、実際に品物を手に取って見られるようにしていただきました。

「非常持出品」の中には、すでに自宅にある物もあります。家庭で話し合いをしながら、必要な物を準備してみましょう。

### 防災リュック取扱店

- ・白糠金物センター
- ・DCMニコット白糠店
- ・プロジェクト
- ・アサヒストアー本店



来月号では「防災リュック」の中身がどのような物で、どのように使うのかを解説します。